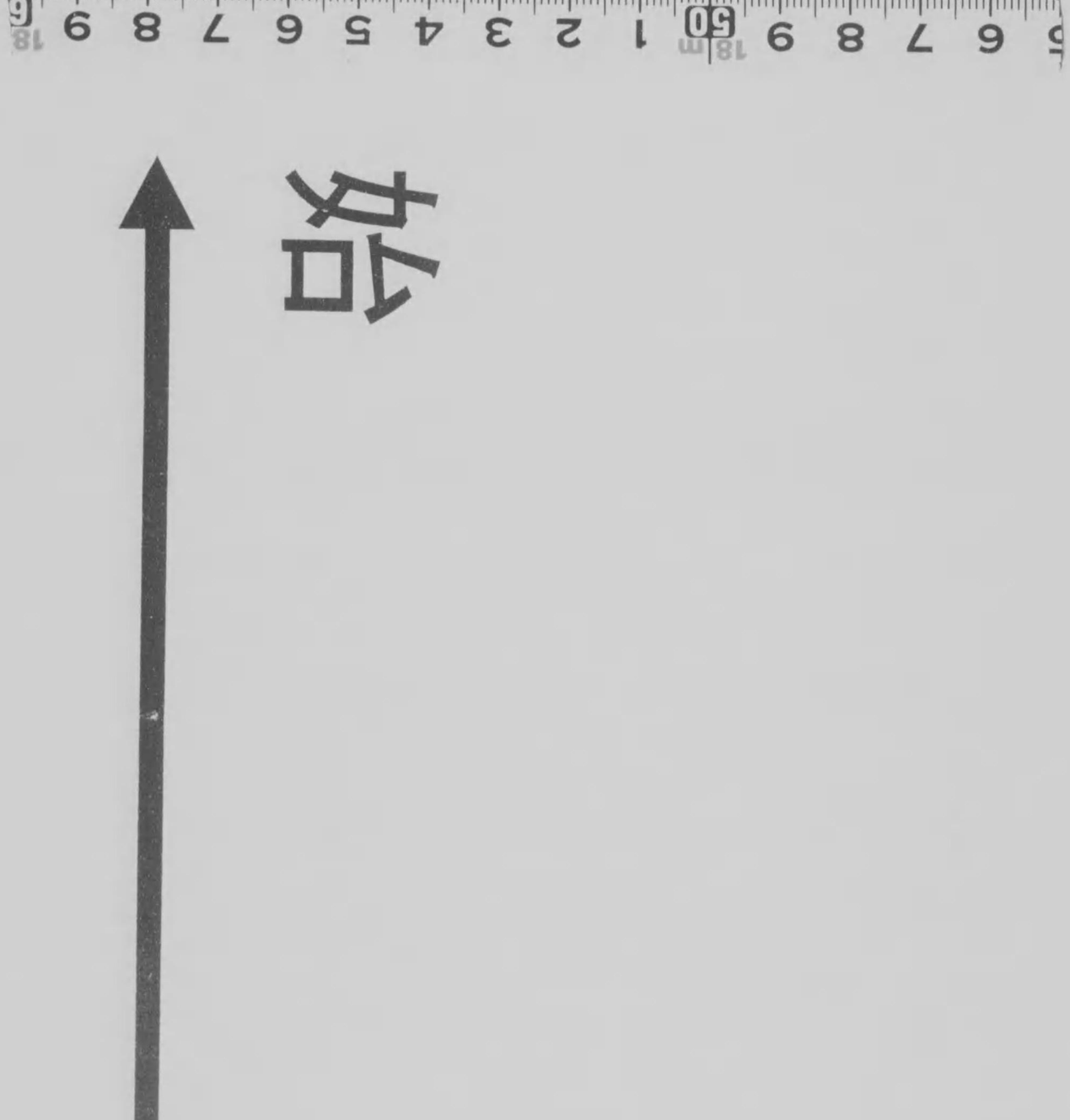
391
149



作ンキンハ・ンョジ・トンセ

男るゐてしを戀終始

譯遙逍内坪

東京◆廣文堂◆發行

391-149.

始終戀をしてゐる男

セント・ジョン・ハンン作
坪内道遙譯

大正
8.10
内交

始終戀をしてゐる男

―一　幕　物―

東京からは數十里離れた或温泉場附近の森林、うねり〳〵一筋の徑は附いてゐるが、杣人や獲師の通る路らしく、眞晝間も閻としてゐる。　眞中に大きな欅の老木、其枝々が舞臺一ぱいに掩ひかぶさつて、その隙間から麗かな日光がちら〳〵さしてゐる。　大空の、枝の間から見える部分は、ちり雲もない純碧。　初夏の時候。

緞帳が上ると、埴輪支郎、欅の根がたに、幹に脊をもたせ、大凝りに凝つて裝釘した最新派の詩集らしいものを讀みながら腰を掛けてゐる。　年齢は二十七八、洋行歸りを驚かすほどの大ハイカラ、帽子から脊廣から持物一切、あつさりと、併しながら最近流行の粹を穿つた打扮。　つい此近

郡の資産家の二男で、東京の某私立大學の法科に入學して、順當なら夙に卒業する筈であつたのだが、同じ下宿の文學科生と別懇になつた結果、課業はそつちのけに、最初は新派の發句、次に新派の三十一文字、それから小說、それから氣分劇にまでも手を出して、同時に實地の觀察にも努力したので、少々健康を害し、年期も延びて一昨年の夏やつと卒業し、それから親族の手前などもあつて、辨護士試驗を受けて見たが、都合よく及第だけはしたので、此春國へ歸り、小使錢に事かゝぬ身を幸ひに、まだそのまゝぶらついてゐるのである。

緞帳のまだ下りてゐるうちから、無數の小鳥の囀る聲々が聞え、それが緞帳の上るにつれて段々かしましくなり、上りをはると林中の全景が展開される。　忽然として野鳩が遠い處で啼く。　と鵜か何がゞ一羽支郎の直頭の上の木で囀りはじめる。　他の一羽がそれに答へる。　支郎はそれを見あげて

支　面白いなア！　世話物のジーグフリードよろしくだ。　ふゝ。

得意らしく微笑して、一寸の間聽耳を立てゝゐたが、また書を讀み耽ける。　突如として郭公鳥が

頻に呼びはじめる。　暫くして支郎はまた見あげて

あゝ彼れだ！　郭公だ！　「飯次の底叩く音や閑子鳥」！　杜鵑なんて譯するンだから話せないや、カクコウと音で訓ませりやいゝのに。……（寂さうに）どうしたらう？　もう來さうなもんだが！

首を長くして、暫く下手、奥の方を眺てゐめたが、又書を讀み耽る。　暫くして、奥の下手、樹木の間に、日光をうけた美しい日傘が閃然見えて、やつと十六位かと思はれる背のすらりとした河田いゝ子がやつて來る。　近年まで英國に在勤してゐて、病氣の爲に歸朝し、昨年新築の別莊へ轉地して療養した甲斐もなく空しくなつた或高等官の秘藏娘、春になると起る持病があるので、母と共に三月初めから引續いての別莊ずまひ、英國かぶれの、一寸理窟つぽい家庭そだちではあるが、一粒種だから十分氣隨にもさせてあつて、ハイカラな、人見知りをしない割合には純撲な娘。　さらりとした極輕さうな本場仕立の洋服姿がよく似あふ混種めいた顏だち。　時候相當の女帽子、流行のパラソル。

娘が樽の近くへ來ると、枯枝が踏まれてポキッといふ音を立てる、で支郎は顔をあげる。　すぐ立上つて、書を閉ぢて、熱心になつて、つか〳〵と進み、右の手をさし出す、書を左の手に持つたまゝで。

支　（不足らしく）　晩いぢやありませんか？

娘　（しづかに）　さう？　晩くッて？　（と懐中時器を見る）。

支　晩からうぢやありませんか？　三時にいらッしやる筈でしたよ。

娘　あら！　三時なんてそんなお約束しやしないわ。　わたしてんでお逢ひするなんてお約束しやしなかつたわ。

支　そりやさうですとも。　ですけれど、いつでも三時でしたらう？

娘　（氣のなさゝうに）　さうでしたかねえ。

支　（熱心に）　さうでしたよ。（×時器を見て）　もう半を過ぎてますよ。　全半時間で

もの僕ァ待惚にあはされッちまつたんでさ。

娘　だつて、爲樣がなかつたもの。　阿母さまに引張られッちまッたの。　お稽古の爲に、床の花をもう一度生けかへろッていふんですもの。

支　あなたのおかァさまは、隨分鈍物ですねえ！

娘　（目をまるくして）　あら！

支　どうしたんです？

娘　（開き直つて）　そんな言葉をお使ひになつても可い譯なんでせうか？

支　（平氣で）　可いでせう——實際鈍物なら。（娘は又目を丸くする）。親てものは大概鈍物ですよ。　僕ァとうからさう信じてゐます。　ねえ、生花の稽古なんか、もつと早くやらせといたが可いぢやありませんか？　朝のうちかなんかに。　貴嬢もまたさうおつしやれば可いのに。

娘　さうは言はれなかつたわ。　とうにしなければならなかつたのを、わたし忘れてゐたんですもの。　一昨日も一昨々日も吩咐けられてゐたんですけれど、つい忘れッちまつたの。

支　さう。　おや仕方が無いや。　（欅の方へ向きて）　ねえ、こゝへいらッしやいよ、一しよにお掛けなさいよ。……好い天氣でせう？

娘　（躊躇しつゝ）腰掛けなけりやならない譯はないでせう？

支　また始まりましたね。　だつて、立つてゐなけりやならない譯もないでせう。僕は立つてゐるのは嫌ひですよ。ですから――ね、樂にしてお話しませうよ。

娘も支郎も腰をおろす。　いよ子は欅の下の左手の芝土手に掛ける。　支郎は右の芝土手に腰をすゑる。

娘　でもね、わたし、あなたと爰に斯うやつてゐなけりやならない譯はないでせう？　それをいふのですの。　こんなにしてると何だかアノ眞實のお親交かなんかのやうぢやありませんか？

支　おや！　あなたとわたしとは、もう既に知交になつてるぢやありませんか？

小鳥の聲々が靜かに聞える。

娘　なつてません、正當には。　紹介されたことがないんですもの。　つい此森の中で、ほんの偶然の機會でお逢ひしたばかしですもの。

支　全く奇緣ですよ、天の引合せですよ。　舊い頭の人に言はせりや、前世からの約束とでも言ふンでせう。

娘　でも、わたしのお母さまは、さうはおつしやらないだらうと思つてよ。

支　だからあなたのお母さんは、鈍物だと言ふンですよ。

娘　あらまた！　（と言つたがこんどは直笑ひ出して）　だつて、大概だれでもさういふでせ

う、初めて逢つたばかしで、お互ひに履歴も好くは知らないのに、あんなにお話なんかしちや不可い譯だつて。

支　おや〳〵！　さうでせうかねえ。　僕ア只道を聞いたばかりでしたよ。

娘　道を聞くのは、そりやアわるくはないのよ。　けども（だん〳〵打解けはじめて）それから種々な事を話しかけたでせう？——さうして此木の下へ腰かけたでせう？——それからわたしのお父さまの事や、わたしが英吉利にゐた時分の事や何か聞いたでせう？　それから、毎日々々、此木の下へ來たでせう？……丁度もう一週間前だわね。

支　して見ると、此木は、月下氷人木とでも言ふンですね。

娘　（わかりかねて）え？

支　何さ。

娘　（考へて）　お母さまは何とおつしやるでせうか知ら？　若し此事が知れたら。

支　何か面白くないやうなことをおつしやりさうですか？

娘　（ふさいで）　然——だらうと思ふのよ。

支　ぢや成るたけ知らせないやうにしといた方が可いですよ。

娘　（考へて）　でもね、もし爰へ來ちやならない譯なんですなら。……ねえ、あなた、どう思つて、爰へ來ちやならない譯なんでせうか？

支　そんな事ア關はない方が可いですよ。　わたしが貴嬢なら關はないね。　怜悧な人間は自分がしたいと思ふことだけを考へてるンです、爲なくちやならないとか、爲ちやならないとかいふやうなことは、如何でも可いぢやありませんか？　でないと、頭腦が混雜になッちまひます。　混雜になりや、無論やりぞこなひますからね。

娘　だつて、爲ちやならないと思ふことをすると、あとで以て不快アな心持がしますもの。

支　爲たいと思つたことを爲得なかつた時ほどぢやありますまい？　此世の中で以て、一等殘念だと思ふ事てのは、爲たいと思ふことを爲得なかつた場合なンです。例へばですねえ、もし僕が一週間前に、爰であなたに逢つた時に、物を言ひかけないで分れたなら、僕は終生それを殘念がつたでせう。

支
娘　殘念がつて？　（男うなづく）。　ほんとに？　實際？
（うなづいて）然。　ほんとに、實際。

男は一寸女の手の上へおのが手をのせる、女はそのまゝにしてゐる。　郭公が一聲二聲こゑ高く呼ぶ。――女手を引く。

娘　（首をかしけて）　此間の鳥でせう？

支郎は起上りて、娘のすぐ傍へ掛けて、木の幹へもたれる。

支　然。

娘　ウァーヅウァースの詩にあるクックーでせう？

支　然。……ね、面白いでせう？　「覺束なくも呼子鳥かな」ッて、あれがその呼子鳥ですよ。　あなた好きですか？

娘　いゝわねえ隨分。

支　いゝでせう！　併し僕がいゝてのは、芭蕉やウァーヅウァースとは別觀察なんです。　あいつ非常に怜悧ですからね。　鳥は大概馬鹿ですけれど――人間もさうだが。　奴等アみんな大きくなると結婚するでせう、さうしてそれからてものは、うぢよ〳〵と子供ばかり製造へて、それを育てあげるのと義務教育の月謝を支拂ふのとで以て一生を滅却にしッちまふのが定例でさア。　呼子鳥先生

そんな愚なこたアしませんや。　てんで義務教育なんてものにやア無關係です。　赤ン坊なんか徹頭こしらへないです！　大將、季節が來りや、此方の木から彼方の木へと飛廻つて、氣に入つた他の呼子鳥と面白さうに遊んでまさア。　が、卵を生む段となると、何處か知ら他の鳥の巢へ行つて生んで來ます、無論その後始末一切先方任せなンです。　怜悧な鳥でせう！

娘　（口を尖らせて、くるり向うむきになつて）　わたしそんなことはしまいわ。　あんまり自分勝手らしいもの。

支　さうですとも、自分勝手ですとも。　けれど怜悧でさアね！　家鴨もねえ、中々怜悧な鳥ですよ。　（娘こちらへ向きかへる。）　けれども郭公とは方法がちがつてます。　（無雜作に）　しよつちう卵を蹈潰すんです。

娘　あら！　何てまあ不器用な鳥でせう！

支　なアに。　わざッとやるんです。　煖めたり何かするよりや早手廻しでさ。　卵を生むとですねえ、奴茫然とした體で、片足を擧げて、警告的にクッ〳〵と二三度啼くです。　すると飼主がソラッと駈附けて、急いで其卵を取つて鷄の巢へ入れる、鷄はみじめでさ、そいつを煖める役へ廻るんです。　僕アこれを家鴨の天才と名づけるンです。

娘　それが天才ですッて！

支　然。　天才とはですね、——つまり——限り無き厄介を敢て他人に掛け得るの資格なンですよ。

娘　ま！　あなた如何してそんなことが言へて？

支　僕が言ふンぢやない。　例のそらオイッケンぢやないベルグソンが言つたんですよ。

娘　嘘よ。　嘘でせう？　わたし家鴨をちつとも怜悧だとは思はなくつてよ。　怜悧さうに見えないもの。

支　そこが怜悧なとこなんですよ。　世の中てものがさうなんでせう？　怜悧な者はわざと馬鹿のやうに見せかけてませう？　さうすりや他人が油斷をする。

娘　家鴨はそこを行くんです。

でもわたし、あなたの言ふやうだと、家鴨や郭公は怖いと思ふわ。　それに、大概の鳥は、雛を生んで、育てたり、養つたり、それから種々な世話をしたりするのを、好くもんだらうと思ひますもの。

支　お説の通り。　だから呆れるんですよ。　奴等は、巣を作つたり、卵を産んだり、孵したりするので以て、大事の一生を棒に振ッちまふンです。　雛が出ると、親父ア蛆を捜しに駈廻りまさア。　巣の中は人口超過で以てごッたかへし

て、餓鬼どもは叫き立てる、亭主ア我慢がしきれなくなつて如何はしい處へ逃げ出す、いやもう活地獄同様！　迚もお話にならない、たまらない有……

娘　まア！

支　と――かく僕ア眞平です。　實際馬鹿な話ですからね。……

いよ子は少しく眉に皺を寄せて、此人生觀の當否を考へつゝ、前こゞみになつてゐる――二人とも暫く無言。

ねえ、お嬢さん、そんな風にしていらしつちやアちつとも樂でないでせう？　木へもたれると好いですよ。　其目的の物にやア此木ア林中第一等ですからね。　だから此木を選んだンです。

娘　（もたれかけて見て）　出來ないわ。　傘がつかへるから。

支　おや〳〵、まださして居たんですか？　すぼめたら可いでせう。

娘　さうね。（傘をすぼめて）この方が可いわ。
　　ぐたりと幹へもたれて、傘を芝生の上へおく。

支　ずつと好いですよ。（ほれ〳〵と眺めて）實際その方がずつと綺麗に見えますよ傘の無いはうが。今までは傘の色が映つて何だか蒼白く見えてましたよ顔が。

娘　さう？　で今は？

支　さうですねえ、ほんのり櫻色といふ奴ですよ。　非常に美しいですよ。　はじめてお逢ひした時に、正に斯うでしたよ。　あの時あなたア如何にも熱さうに扇子を使つてゐましたらう？　少し上氣してね。　ほんとに天人のやうに綺麗でしたよ。　それから貴嬢の目がね、どうもソノ澄みわたつて、まるで星のやうに……いゝ頭髪ですねえ！　まるで漆の……

娘　（困って）埴輪さん、そんなこと言つちやいけません。

支　いけません？　何故です？　綺麗だといはれるのは貴嬢わるい心持ぢやないでせう？

娘　（うぶらしく）然。　そりやさうですけれども、男の方が若い娘にそんなやうなことと言つても可い譯でせうか？……

支　おや〳〵！　また始まりましたね。

娘　二人ッきりのところで。

支　可いぢやありませんか？　眞實の事なら。　あなたは實際綺麗でせう、目はその通り可愛らしいし、顔は下ぶくらで——實際でさアね、艶々して——ぱつと櫻が咲いたやうに——え？——可いぢやありませんか、さう言つたつて？

娘　後生ですから！
　　と言ひかけて默る、目には涙が一ぱい。

支　（大きに心配して）　河田さん、どうしたんです？　泣いていらつしやるね？

娘　（額をそむけて、鼻聲で）　いゝ……え。

支　いゝえ〳〵。　だつて涙が出てますもの。　何か僕が惡いことを言ひました か？　何がお氣にさはつたんです？　おつしやいよ。　え？

娘　（やつと我に復りて）　何でもありませんの。　いゝえ、全く。　もう可いんです。

大きに心配の體。

只ね……もうあんなこと二度とおつしやつちやア否です。……可いこと？

約束して頂戴。

かくしからハンケチを取り出す。

支　えゝ、約束しますよ……是非とおつしやるなら。　さ、涙をお拭きなさいよ、さ。　さうしてお互に好兒になりませうよ。　僕の乳母がいつでも斯ういつた

んですよ、昔、僕と妹とが喧譁をして泣いてるといふと。　それから「拭いて あげませうか」ッてね。

と言ひ〳〵ハンケチを取りて、やさしく拭いてやる。

娘　（がくりと息を呑込みて）　ありがと。　（急にハンケチを引きたくつて）　あなた、馬鹿なこと を！

支　おや〳〵！

いよ子は芝生を離れて、ハンケチをおもちやにしながら、あちこち歩きながら話す。

娘　ぢや貴下、折々お妹さんと喧譁をして？

支　然、しよつちう。　それから兄や弟ともね。　あなたは？

娘　わたし兄弟は一人もなしなの。

支　おや〳〵！　ぢや、何となく淋しいやうな心持がしたでせう？

娘　（そっけなく）　でも始終力夫さんが一しょにゐましたわ。

支　力夫さん……てのは？

娘　従弟なの、町端力夫ッて。ロンドンへ行かない前は始終一しょにゐましたの、宅にあづけられてゐたんですから。　力夫さんのお父さんは、其時分商用で以て、臺灣の方へ往つてましたの。

支　で其人が常住あなたと喧嘩したんですね。

娘　（目をまるくして）　あら！　いゝえ！　一度も喧嘩なんかしたことはないわ。　とにかく力夫さんはしなかつたことよ、わたしは時々怒つたけれど。

支　ぢや面白かないや！　喧嘩て奴はお互ひッこでなくッちや何の役にも立たないからね。

娘　喧嘩が何かの役に立つて？

支　立ちますとも。仲直りてことが出來まさアね其お庇で？

娘　ぢや、その爲に貴下はお妹さんと喧嘩したの？

支　でしたらうよ多分、無論其時分にやさうと氣が附いちやゐませんでしたがね。妹を怖しくいぢめたんですよ、髪を引張つたり何かしてね。　おそろしく愉快な、眞黒な頭髪でしたからね、貴嬢の頭髪のやうな——おッと！　言つちや不可かつたのですね。　失敬々々！　あなたも力夫さんの頭髪を引張りました

娘　（笑ひ出して）引張つたかも知れないわ、稀には。

支　きつと行つたでせう。　何年位一しょにゐたんです？

娘　丁度三年。　英吉利へお父さまと一しょに行くまでは一しょにゐましたの。

支　で、あなたが英國にゐた間に、手紙のやりとりをしましたか？

娘　えゝ。　をり〳〵。

支　今は何處にゐるんです？

娘　東京、去年商業學校を卒業して叔父さんの社にゐなさるの。　もう直に社員になるんでせうよ。

支　おや〳〵、可哀さうに！

娘　（目をまるくして）可哀さうに！　何故？　お母さまはいつでも、あの人は寔に仕合せな人だッてますわ。

支　さうでせう。　親て者は、若い者が毎日社へ行きさへすりや仕合せだと思つてるものです。　僕の親父だつてさうです。

娘　あなたも毎日行くの、何處かの社へ？

支　いゝえ。

娘　（嚴然となつて）ぢや貴下にやよく解らなくつてよ社の事は。

支　（平氣で）どうして、解り過ぎてます。　だから行かないんです。

娘　ぢや貴下何をしてるの？

支　何もしません。　職業は辯護士——しかもなりたてのほや〳〵です。

娘　辯護士？　東京でゝせう？　（男うなづく）。　何故こんなとこにゐるんですの？

支　東京にゐりやあ、親類共がやかましいから、否でも開業しなけァなりません、さうすりや名聞半分で親父やお袋が廣告して歩くから、親父への義理からでも何か知ら訴訟事件を擔ぎ込む者がゐるに相違ないです。　十に八九は何か知ら頼まれまさ。　頼まれたりといふと、臨時代用の怪しい事務所に燻り返つて調査て奴をやらかしたり、餘興演劇へ出て來る聖德太子のやうな裝をして殺風景な法廷で團子理窟をこねくつたり何かしなけりやならないでせう。　あなた、

と、斯ういふ愉快な木の下でお話なんか出來やしません。

娘　ですけれど、こんな風に時間を浪費なすつても可い譯でせうか？

支　（眞に呆れたらしい顏をして）　時間の浪費ですつて！　かうして——かういふ愉快な木の下で——あなたとお話をしてるのが浪費ですつて？　かうしてるのがさうぢやなくつて？

娘　ないですとも！　天氣がよくつて、空が蒼々と晴渡つてる時分に、むさくろしい事務室なんかに燻つて、面白くもない數字の計算なんかしてるのこそ時間の浪費でさア。　大切な時間を帳簿と首ッ引かなんかで全一日外へも出ないで、世の中が如何なに美しいか、如何なに面白いか、生の悅びは如何なもんだか、まるッきり味つて見ることもしないで以て燻り返つてるのが、それが純粹の浪費です。　戀人の一人も拵へてゐべき時に、只もう金ばかりこしらへてゐるの

が、それが即ち時間の浪費です。

娘　さア！

支郎も立上りて、傍へよりて

支　え、さうぢやありませんか？

娘　（困つて）　さうかも知れません。　（と顏をそむける）。

支　あなたどつてさう思つてませう？　だれだつてさう思つてますよ。　只公然主張し得ないのみです。　貴孃だつて今にさう思ひますよ。……あなたとわたしと今日から仲好しになりませうよ。　ね？　戀人になりませうよ。　ね？　いゝでせう？

娘　（俯目になりて）　然。

支　戀人になつた以上は斯うよそ〳〵しくしてゐちや不自然ですねえ。　こつちへ

いらつしやいよ。　ね、帽子を取ッちまつて、もう少し楽になさいよ。　こゝへお掛けなさいよ。……

（娘その通りにする。　支郎徐かに抱擁して）

娘　そら！　楽でせう斯うしてると？

支　然。　（と足げに溜息。）

娘　綺麗な頭髪ですねえ！　まるで絹絲のやうだ。　（と撫でゝ）　撫でられるのは不愉快ぢやないでせう？

娘　然。

支　怜悧ですねえあなたは！　（間。　愉快げに笑って）　ねえ、あなたを何てって呼んだら可いだらう？　まだあなたの名を知らなかつた。

娘　知らない？

支　然。　知らせないんですもの未だ。　何ていふの？　わたしは支郎。

娘　わたしいよ子。

支　いよ子？　いよ子は不可いね。　前世紀臭い名でさア。　五尺イヨコノなんて、昔の手拭でさア。　糸さんと呼びませうよ。　だれか前に糸さんて呼んだ者がありますか？

娘　いゝえ。

支　ぢや、糸さんにしませう。　ね、一等いとしい人だから糸さん。　それから小糸佐七ね、本町二丁目の糸屋の娘ッてね。　いゝでせう？

娘　（うぶらしく）あなたが好きなら。

支　ぢや、それは確定。　（背中を撫でる。　暫く無言）。　かうしてると、天へ昇つたやうでせう？

娘　（目を瞑りて）然。　天へ昇つたやうです。

支　世界中にこんな幸福なことはないんですよ。　ラヴは世界中の一等美しいことなんだからね。　ね、さうおつしやいよ。

娘　ラヴは世界中の一等美しいことなんですの。

支　好兒々々！　よく言ひましたね。

と又背中を撫でる。

娘　（ふつと心附いたらしく）けども、力夫さんが怒るかも知れないわ。

雀がちく〳〵と囀るのが聞える。

支　怒るつて？

娘　然。　力夫さんもわたしを愛してるでせう？　子供の時分から愛してゐたといふんですもの。　（歎息して）氣の毒だわ！

支　とんでもないこと。　力夫さんは仕合せ者でさ！

娘　（駭いて）何故？

支　子供の時からと言や十年近くにもなるでせう？　わたしは僅々一週間あなたを愛してゐたばかりです……知交になつてから、たつた一週間でせう？

娘　でも力夫さんは、さういふ風に考へてはゐなかつたでせうよ。

支　（うなづいて）馬鹿だね。

娘　だつて、わたしが始終嫌つてたもの。

支　なるほど。　で以て大將、片思ひを續行してたんだね。　お拔けさんにやそれで以て澤山でさア。……

小鳥のちく〳〵が聞えなくなる。

何て可愛い目だね！　始めてあなたに逢つた時に、先づ此目に目が附いたね。

だから物を言ひかけたの。

娘　（内氣らしく）わたし宿屋へ行く道を訊いてらつしやるのかと思つたわ。

支　そりや口實でさ。　道はあなた同様に知つてゐたんです。　その宿から來たばかりでしたの。　けれどもあなたのその柔い絹絲のやうな頭髮へ日光があたつて、その可愛らしい目が星のやうに輝いたのを見るといふと、どうしても何とか言はずにやゐられないやうになつたのでしたよ。　わたしが物をいひかけたのを嬉しく思つて？

娘　然。

支　大、、、、、へんに嬉しく思つて？

娘　然。

支　好兒々々！　御褒美！　（トだしぬけにキスする。　いよ子驚いて飛退き）

娘　あら！　そんなことをしちや不可ません！　（なさけなげに）不可ません！

支　不可い？　何故です？

娘　お母さまにお斷りしてからでなくちや不可ないんだものを！　（ト泣き聲）。

支　お母さまにお斷りしてから？　おや〳〵……斷るとは如何するのです？

娘　表向にお約束をして貰ふんです。

支　ぢや仲人て奴を頼んで？

娘　勿論でせう。

支　（歎息して）　おや〳〵、さうしなけりやならないでせうかねえ——やつぱり。

娘　え、やつぱり？　あなたはあんまり氣が進まないやうね。

支　進みませんよ。　これだけはわたし、何時でも閉口です。　大嫌ひなんだ。

娘　いつでも!?　（驚いて男の顏を見つめる。）

支　（平氣で）然。　親達の處へ人を遣つて、正式に談判に及ぶなんてことは大嫌ひです。　親て者は實際非常に沒常識なものですからね。　親達にはローマンスなんてことは全然分りませんからね。……ね、森の中で、あなたが一人の娘に逢ふでせう。　時は五月。　日はうら〳〵とさしてゐる。　空に一點の雲もない。　その娘は非常に可愛らしい。　忽ちあなたが戀に落ちる。　何もかも理想的、幸福づくめ。　すると――どういふ譯だか――娘はお袋に話さうといふ。　で、あなたがお袋に逢ふ。　とお袋は直ちに、あなたの職業は何で、收入が幾らで、遺産が幾らだなぞとたづねはじめる――すつかり破毀でさ。

娘　（いよ〳〵解しかねて）だつてわたし解らないわ。　あなたは、さういふやうなことを前にもなすつたことがあるやうにおつしやるんだもの。

支　然、ありますよ。　何度も。

娘　あら！

思はず立ずくみになる。　目は怒で輝いてゐる。

支　立つてちやお話が出來ないからもう一度お掛けなさいよ。　まだ早いから。

娘　（口をもぐつかせて）　あなたは幾たびも前にラヴの經驗があるとおつしやるんですか？　他の方と？

支　（いかにも案外らしく）ありますとも。

娘　さうして結婚の約束をなすつたんですか？

支　いゝえ、約束はしません。　僕は曾て約束したことはありません。　けれどもラヴは度々しましたよ。……

いよ子怒つて地鞴を踏み、くるりとあちらを向く。

お嬢さん、どうしました？　大變腹を立ちましたね。

娘　（憤激して）　それでもあなたは――恥かしいと思はないこと？

支　（思はず起ち上り）　恥かしい？　何がです？　ラヴをするのがですか？　どういふ譯で？　無論、恥かしいとは思ひませんね。　ラヴをしない位なら生きてる甲斐はないぢやありませんか？　わたしア常住ラヴしてゐます。　實際――だれか知らラヴしてゐない時はない位です。

娘　（いよ〳〵憤激の體で）　ぢや何故約束しないんです？　ラヴしながら婚禮の約束をしないのはイ正です。

支　それはね、親がわるいのです。　親てものは非常識な者だと今言ひましたら。　親が約束をさせないんです。

娘　何故ですの？

支　いろ〳〵理由があります。　多くは、「あの方は眞面目でないから不可い」と言

ひます。　或は、懶惰者だから不可いの、定收入がないから不可いの、いや、迚も彼人は我兒を幸福にしてはくれさうにないから不可いなぞと言ひます。　とにかく約束までに運ばせないのです。　當人は種々ですがね、親て者はどれも同じです。　あなたのお母さんも同斷でせう？……

いよ〳〵耐へかねて「まあ！」と叫ぶ。

娘　無無はないです。　あなたのお母さんを嘲弄してるのぢやありませんよ。　どの親も、或は必しも間違つちやゐないんでせう。　實際彼等のはうが正しいのかも知れません。　僕ア只どういふ理でといふことを說明したのみです。

支　（むけ〳〵とあらけなく）　どういふ理といふことは解りましてよ。　あなたは實際結婚しようとは望まないんでせう？

娘　無論結婚なんざ望みませんね。　だれだつてさうでさ、全くの馬鹿でない以上

は。　ラヴするのはだれでも好です、ラヴてものは愉快なもんですからね。
それから約束て奴も、海とも山ともきまらないだけに、わるくないと思ひます
ね、――僕アまだ經驗しませんけれども。　しかし結婚は――いよ〳〵日比谷
へ出張ッて奴ア――こりや全く耐らない嫌なもんですねえ。

娘　（呆れて）　ま、何ですつて！　戀愛が好いもんですのに、どうして結婚が嫌なも
んなんです？

支　あなたは郭公のことを忘れましたか？

娘　あら!!

支　何等の羈絆もなく、何等の責任もなく、うぢようぢよと啼きたてたり、わめき
立てたりする餓鬼共もなくッてね。　野天の生垣に於ける自由な生活。　*Life*
an l love！　あゝ幸福な閑子鳥！　理想的の生活でさ！

娘　（憤激して）　わたしア郭公は卑むべき鳥だと思ひます。　卑劣な、おそろしい、
自分勝手な、いやアな、いやアな鳥だと思ひます。

支　とんでもないこッてす。　そんなに惡くいつて下さるな。　郭公は僕の大事の
友達です。　實際僕自身が郭公の亞流なんです。

娘　（面と向つて）　わたしあなたは大嫌ひよ！　大嫌ひです！　（と足ぶみをする）。

支　（おちついて、確信の體で）　そりや嘘ですよ。

娘　いゝえ、眞實です！

支　（頭をふつて）　いゝえ、嘘です。　（全く眞目に）　人てものは一たん愛した者を決して
眞實に嫌ぶもんぢやありませんよ。

男は凝と女の目を見つめる。　一二分の間女は憤然として男を睨み返したが、やがて俯目にな
と、目に涙が一ぱいになる。

娘　（ほとんど泣出しかけて）なんて怖い人なんです貴下は、そんなことを言ふなんて！

支　なぜです？

娘　それが本心らしいもの。　あゝ、わかしなさけないわ！（と泣出す。）

支　（全く困って）いとさん！　泣いてるの？　泣いちやいけませんよ。　わたし泣く人を見るのは眞平です。（と肩へ手をかける）。

娘　（振拂って）いやよ！　さはつちや厭です。　そんな風にして取換へ引換へラヴするなんて！（泣きながら）わたしばかし愛してるんだと思つてたものを！

支　さ、あなたばかりを愛してるンですよ——今は。

娘　（涙聲で）だつてわたし貴下は他の人をラヴしたことはないんだと思つてたもの。　それから貴下アわたしの事をいとさんと呼んだわ、一等いとしい人だといつたわ。

支　一等いとしい人なんです、全く今まで出逢つた娘さんの中でゞす。　全くなんです。（議論的に）それにです、人はラヴするといふ段にはラヴせざるを得なからうぢやありませんか。　例へばですねえ、わたしがです、圖らずもあなたの顔を見た、すると見た瞬間にソノ愛に落ちざるを得なかつたんです。　貴下は絶對にソノ立派に見えたんです。　それに天氣はあの通り素晴しかつたでせう？　だから戀に落ちざるを得なかつたんです。

娘　（此辯辭で少々怒をなだめられ、涙を乾かして）でも、あなたは大勢の人と愛にお落になるやうだもの。

支　（からかふやうに）可いぢやありませんか？　一人以上の女をラヴするてのは、一人以上の男にラヴされてるのと、つまり五分々々ですよ、どつちが惡いといふこともないでせう？……力夫さんは如何です？

娘　力夫さん？

雀がまたチク〳〵と囀りはじめる。

支　（うなづいて）力夫さんは貴嬢を思つてるでせう？　わたしも貴嬢を思つてる。そこで貴嬢の戀人は同じ時に二人ですよ！　わたしは、同じ時には、僅々一人しか思つてやしません。

娘　（反抗的に）　だつて力夫さんがわたしを思ふのは、わたし仕様がありませんもの。

支　わたしだつて貴嬢を思ふのは、どうもしやうがありませんもの。　こゝが要點なんです。　解りましたか？

娘　いゝえ、ちつとも解りません。　力夫さんは貴下とは全然ちがつてゝよ。　力夫さんは眞實に常住思つてるの。

支　常住てことが眼目ですか？　ぢやわたしだつてさうです。

娘　いゝえ、あなたはさうでないわ。　御自分にもそりや解つてませう？

支　いゝえ、わたしこそ常住思つてますよ、わたしに取つちや戀愛は幾んど職業なんですからね。

娘　いゝえ、同じ人ばッかし思つてなくちやいけませんの。

支　おや〳〵！　常住だけぢやいけないのですか？

娘　（思はず吹出して）　馬鹿らしいわ！　（と向うを向く。）

支　（やゝ安心の體で）　上等！　やつと御機嫌が直りましたね。

娘　（わざとふくれて）　いゝえ。

支　嘘をおつきなさい！

娘　いゝえ、直りません。　大變に怒つてますの。

支　そりや無理です。　怒つたり笑つたり一しよに出來るもんぢやありませんよ

だれにだつて。　ところが、貴嬢は今笑つたよ。　そらね、今だつて笑つてま

さア。（娘心ともなく笑ひ顔をする。）　だからもう喧譁は止ませう。　こんな好い日

に喧譁するのア馬鹿らしいです。　仲直りをして、ね、又戀人同志になりませ

う。

雀の囀りが聞えなくなる。

娘　（頭をふつて）いやです。

支　さういはないでね！

娘　（頭をふつて）いやです。

支　ねえ、あなたはあんまり解らないよ。　ラヴてものはさう無暗にうつちやるべ

きものぢゃありませんよ。　勿體ない。　ラヴは世界中で最もうるはしいもの

です。　あなた自身さういつたぢやありませんか、十分ばかり前に。

娘　いゝえ、そんなことといやしないわ。　あなたがいつたわ。（と俯目になる。）

支　けれども、わたしが言つた後で貴嬢もさう言つたでせう？（やさしく眞面目に）

いとさん、ね、馬鹿なこと言はないでね、ラヴになりませうよ、今のうちに、

若い時ア二度ないんですよ、ラヴは若い時に限るんですよ。　もう直に、貴嬢

もわたしも、間抜な、面白くもない中年て奴になつちまふんです、世間の野呂

間連中と同じやうにね。　さうなつちやもう駄目ですからねえ。　少年老い易

し戀成りがたしですからね。　一秒だつて浪費しちやならないんですよ。　蜉

蝣て蟲はたつた一日の壽命しかないと言ひますねえ。　朝生れて其午後中、麗

々とした日光の中を河や池の上を飛び廻つてまさ。　鯉か何かどがぶりとや

らうとすると、ひよいと身をかはして馬鹿にしたり、他の蜉蝣とふざけたりし

て。　さうして夕方になると死ぬ。　若し此蜉蝣が雨降の日に生れたらどうでせう。　悲劇ぢやありませんか！

娘　（やさしく）可哀さうだわねえ。

支　そこです！　あなたは蜉蝣を可哀さうだとおつしやるでせう？　それだのに、わたしに對しちやア怒つてばかりいらつしやる。

娘　そりやあなたは、蜉蝣とはちがふもの。

支　ちがひませんよ。　わたしも確かに蜉蝣のたぐひなんですよ。

娘　（涙ぐんだらしい聲で）　そんなことがあるもんですか？　（詰問的に）　どうして蜉蝣です？　それに、つい今がた、わたしは郭公だとおつしやつたぢやなくつて？

支　さ、或はわたしは、郭公兼蜉蝣てッたやうな動物かも知れませんよ。　といふのは、わたしは雨降は大嫌ひですからね。　おや〳〵！　又あなたの目から雨

が降りさうになりましたね、それが即ち雨降だらうぢやありませんか？　だから泣ッこなし、好兒だから。　ね、わたしが拭いてあげませう。……

（娘のハンケチを取りて拭いてやる。　娘は悲しげに笑ふ。）

娘　そら、それでよくなつた。　さ、お互ひに好兒になつて遊びませうね。　ね？

（力なげに）　然。

支　（手をさし出して）　接吻して下さい。　さうして仲好になりませう。　ね？

娘　（小さい聲で）　仲好になりませう。　けれど、もう決して接吻しちやいけません。

支　おや〳〵！　なぜです？

娘　なぜでも。

支　（快活に）　ねえ、とにかく先の處へお掛けなさいね、ね？　仲直りをしたといふ證據に、ね。

木の方へ進む。

娘　（頭をふつて、子供のやうに）　いや。

支　（失望して、ふりむいて）　あゝ！……ぢやまだ怒つてるんですね。

娘　いゝえ。　（帽子を取あげて）　けども――わたし歸らなけりやならないの。　力夫さんが五時の列車で來るんですから、ステーションへ迎ひに行かなけりやなりませんの。（手をさし出して）　さやうなら、埴輪さん。

支　（手を取りて）　いとさん！　力夫さんの言ふことを聽く積りですか！

娘　（獨語のやうに）　どうですか？

支　では力夫さんからお母さんへ申込むんですか？

娘　勿論よ。

支　（手を離して）　やれ〳〵、可哀さうに！　みじめな力夫さんだ！　それで先生のロ

ーマンスは終局になッちまふんだ！

娘　そんなことアなくつてよ。　わたゝがあの人を幸福にしてやりますもの。

支　成程ね。　結婚は幸福かも知れない、が決してローマンスぢやなさゝうだね！

娘　まア！

こちらへかねた絶叫。　くるりとあちらへ向きて去る。　支郎にやりと笑つて、女の行くのを見送る、半分は面白さう、半分は苦痛らしい表情。　女はとう〳〵見えなくなる、すると歎息して木の方へ向き直り

（又腰をかけて）　力夫といふ奴は憫然だ！

又書物を開いて再び讀みかける。　郭公が遠くの茂みで聲高く呼ぶと、其友が應へる。　支郎目を擧げて聞耳を立てる。　此トタンに帳がおりる。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

始終戀をしてゐる男（終）

劇作家としてのハンキン

緒言

英國の最近二十餘年間は、其劇文學の新開花期であつたといつて可い。近代の最も進んだ大陸文學と歩調を共にすることを得る眞面目な、藝術品らしい新しい脚本の出來たのは、すべて此期間のことである。いふまでもなく、其以前にも演劇は隆盛であり、作者も相應に輩出し、中にもピネロやジョンスやグランディやギルバートらの名は、最も人氣ある作家として一般に知られてゐたが、彼等の作は、彼のエリザベス時代の名作が文學として、又大陸近代の諸家の作が新時代精神の反映として、且つ新しい藝術品として、推重されると同じ意味で推重されるには、餘りに俗受本位、興行本位に出來てゐた。　さうかといつて、彼のヰクトリヤ女王朝以

來、テニスンやブラウニングや其他の詩人連の試みた所謂詩劇も、つまりは机の上で讀む物として高尚がられだばかりで、其中の最も成功したらしかつたのさへ、實際の劇壇には、是れぞといふ印跡をも殘さないで過去つてしまつた。

で、一時は、英國の劇壇と文學とは、幾ど全く緣切の姿となつて、芝居好の識者らが、めい〳〵口癖のやうに、英國劇の衰廢を慨歎し、或はゴッスやアーチャーなぞのやうに、イブセンの紹介に盡力して、沈睡の劇界に何等かの刺戟を與へようと試みたにも係らず、今から二十五六年前までは、どういふ新機運も動きさうに思へなかつたのである。　興行の爲の脚本は、造り花を製るやうにして、おつかけ〳〵新作されたが、それらは根ッから梨園の新しい春を招き寄する助けにはならなかつた。ところが、機運は卒熟するとなると、一度期に來るものと見えて、最近の二十餘年は、少くとも其作物の清新と自由と其文學的であると同時に實演的でもあるといふ

點に於て、直ちに彼のエリザベス時代のに接近すべき夥しい新作を產出せしめた。其中には、既に其名を世界的にした作者も尠くない。　此新作家群の最も名高いのを、ざつと其出世順で擧げて見ると、先づワイルド、ショー、フィリップス、ハンキン、ガルスワージー、バーリー、バーカー、メースフィールド、續いてハウトン、ザングヰル、なぞといつたやうな順序になる。　尙之に愛蘭作家を加へると、シング、（シンジ）、イェーツ、グレゴリー、ロビンソンなぞがある。　少くとも此中の四五人は、ハウプトマンとメータリンクとを別格として取除くと、現今大陸で第一二流と見做されて活動してゐる作家らと比べて、決してと言はぬまでも、强ち遜色のある作者ではない。

而して此劇文學の發達が、如何に急遽であつたかは、ほゞ左の表を見ると分る。

一八八九年……ピネロ作「道樂者（プロフリゲート）」

一八九二年……ワイルド作「ウィンドミヤ夫人の扇子」……ショー作「貧民長屋」
一八九三年……ワイルド作「サロメ」……ピネロ作「タンカレーの第二の妻」
一八九四年……ショー作「武功と人」及び「ウォーレン夫人の職業」……イェーツ
作「心願の國土」
一八九五年……ショー作「カンディダ」
一八九七年……ショー作「惡魔の弟子」及び「運命の人」
一八九九年……ショー作「シーザーとクレオパトラ」……フィリップス作「バオラ
とフランチェスカ」……イェーツ作「伯夫人カスリーン」
一九〇〇年……ショー作「分らないものでございます」（松葉氏譯「廿世紀」）……
フィリップス作「ヘロッド王」
一九〇三年……パーカー作「アンリートの結婚」……ショー作「船長ブラスバウ

ンドの改宗」……バーリー作「偉人クライトン」……イェーツ作
「フーリハンのカスリーン」其他
一九〇三年……ハンキン作「兩ウェザビー氏」
一九〇四年……ショー作「ジョンブルの他の島」……フィリップス作「デギッドの罪」
バーリー作「ピーター・バン」……ハンキン作「のらくら息子の
歸宅」……イェーツ作「幻の海」……グレゴリー夫人作「うはさの
弘まり」
一九〇五年……シング作「谷の陰」及び「聖者の泉」（逍遙翻案「靈驗」）……ショ
ー作「人と超人」……バーカー作「ヴォイジー家の遺産」
一九〇六年……ガルスワージー作「銀の匣」……ハンキン作「我家を手始めの
慈善」……ショー作「醫師の板はさみ」……ピネロ作「家内の

一九〇七年……シング作「西沿岸の惡太郎（ブレーボイ）」……バーカー作「浪費（ウエースト）」……ハンキン作「カシルの婚約」……ガルスワージー作「ジョイ」

一九〇八年……ショー作「結婚（ダチング・マーリード）」……ハンキン作「最後のド・ムラン家」

（醒めたる女）……メースフィールド作「ナンの悲劇」……ザングキル作「坩堝（メルチング、ポット）」

一九〇九年……ガルスワージー作「爭鬪（ストライフ）」及び「惣領息子（エルデスト・サン）」

一九一〇年……シング作「哀愁のデアドラ」……ガルスワージー作「裁判（ジャスチス）」……メースフィールド作「大ボンペイ」……ロビンソン作「收獲（ハーベスト）」（松葉氏翻案「茶を作る家」）……バーカー作「マドラス・ハウス」……ピネロ作「雷斧（サンダーボルト）」

一九一一年……ショー作「ファンニーの處女脚本」……ザングキル作「戰神（ウオーゴッド）」

一九一二年……ガルスワージー作「鳩」……ハウトン作「ヒンドル例祭（ウエークス）」

一九一三年……ショー作「ピグメリオン」

以上は、只、本論の必要上、目安になるやうな作だけを擧げて見たのであるが、幸ひに此等の作の多くは、既に我國語に翻譯又は翻案され、或は上演までもされてたものであるから、別に說明を加へずとも、それらが兎も角も在來の興行本位に作られた月並の脚本（*well-made play*）以外に出たものであるといふことだけは明かであらう。　つまり、此僅々二十三四年の間に於て、英國の劇文學は、其內容は勿論、其形式までも驚くべく變化したのである。　ピネロやジョンスやギルバートやグランディの時代は急に過去つてしまつたのである。　流石にピネロとジョンスとは、今も尙幾らか其估券を保持し得てゐるやうであるが、彼等の作柄とても、周圍の影

響で、此間に多少變遷した。で、ビネロの最善の作は「道樂者」以後に於て見出されるのである。彼れすらも大陸作家の、といふうちにも特にイブセンの影響を感じないではゐられなかつたらしい位だから、他の新進氣鋭の作家群に於けるスカンディナヴィヤ劇の感化は著しいものであつた。英國の新作家らは、ノラが人形の衣裳を脱ぎ棄てたやうに、めい〳〵幾らかづゝ思はくを異にして、劇の舊套を脱しようとして蹂いた。ショーは何よりも先に内容に蟠つてゐるあらゆる襤褸屑を掃き出さうと奮躍し、ワイルドは寧ろ形式上、修辭上に自家獨特の色彩を發揮しようと力めた。ショーが社會主義宣傳の爲に劇を作ると呼號してゐた時に、ワイルドは、俺は藝術の爲に藝術を作るのだ、即ち劇をして文學たらしめ藝術たらしめるために作るのだと、主張して、專ら修辭上の技巧に沒頭してゐた。二人共に自信を實行するに鋭意であつたのは同じだが、其志す所と其行き方とは、幾んど全く相反してゐ

た。ところで、此二人と同時に出て、其作柄及び態度からいふと、丁度此二人の兩極端の中間を辿つて、バーカーやガルスワージーよりも先に、又イェーツやシングなどよりも以前に、少數の具眼者側の認識を博してゐた一人の新作家があつた。それが即ち本譯書の原作者ジョン・ハンキンである。彼れは、假に愛蘭の諸作家を別格扱ひにするとすれば、英國の新しい劇的運動に於ける最も卓越した先驅者の一人であつて、其思想に於て、其才藻に於て、前は直ちにショー、ワイルドに接し、若し彼れをして壽ならしめたならば、或は一時、後のガルスワージーを凌ぐか、さなくも優かに彼れと輸贏を爭つたらしい作家であつた。

ジェームス・ケネディが其一九一二年に出版した最近代の英國文學史で「セント・ジョン・ハンキンはガルスワージー氏やグランヴル・バーカー氏が今日までに作りたるものに比べて、予の心に愬ふる所一倍ゆたかなる脚本の標品を少數ながら遺しお

きて逝けり」と言つたのは頗る公平な批判のやうに思はれる。　ハンキンの人生觀察の態度が、彼れが一寸ショーに似た諷刺家でありユーモリストであるのに累せらるゝことなく、終始一貫して頗る眞摯である點は、ワイルドの遊戯的なのとは大きに違ひ、又ショーよりもずつと眞面目で、ショーほどに華やかでも賑やかでもない代りに、脚色其他が純粹であり、引締つてゐて、脚本の新標本を作ることに對しては少からぬ貢献をしてゐたといつてよい。

勿論、イブセン其他大陸の名家から、直接又は間接に誨へられてゐた爲でもあらうし、近くはショーの感化もあつたのであらうが、彼れの脚本は、種々の意味に於て、其前に出た諸作よりも新しみの充實したものであつたといへる。　單に形式上だけを見ても、例へば、彼の傍白や獨白は、イブセンさへも其晩年の作に於てすら、どうかすると之を全廢するのを難んじた位であるのに、ハンキンは其處女作に於て

すら幾んど全くそれを棄去つてゐる。　即ち自然主義派は、ワイルド以上は勿論、イブセン以上、ショー以上に進んでゐる。　隨つて性格描寫の手際も、ガルスワージー以前には競爭者なしといつてもよい位に自然的で、彼のワイルドの人物の如く脚色や秀句の爲に作られた偶人でもなく、ショーの人物の如く興に任せて誇張されたり、又作者の議論や警句を代言する爲に使役されたりする假裝者でもない。　不幸にして早世したゝめに、其作品が少く、且つ其天分もまた十分熟してゐたとは言へないので、其遺產だけを標準にしていふと、無論大した推讃も出來かねるが、併しながらワイルドやショーやバーカーやガルスワージーらの作が頻に我國に持囃される今日、英國の新しい劇的運動の最も秀でた卒先者の一人であつたハンキンが、其名だけさへも全然有るか無きかのやうに取扱はれるといふは片手落な沙汰でもあり、近代の英國劇を批判する都合上からいつても、不具な見方であるといはねば

ならぬ。　私がハンキンの作を譯さうとしたには、まだ他の理由もあるが、一つは此不幸な一天才を、せめて一應我國の讀書社會に紹介したいと思つたからである。

セント・ジョン・イマイル、クラヴリング・ハンキンは、チャールス・ライト・ハンキンといふ人の男で、一八六四年の九月二十五日に英國サウサムプトンで生れた。其學歴はオックスフォードのマートン大學の卒業である。　一八九〇年に「土曜詳論（サターデイレヰユー）」の寄書家となつたのが、彼れが雜誌記者となつた初めだといふ。　それから一年程は「印度日々新聞（インデイヤン・デイリ・ニユース）」の記者となつて印度のカルカッタに居たこともあつた。　その後またロンドンに歸つて來て「タイムス」其他のために劇や文學の批評家として働き、傍ら「ポンチ」の寄書家として知られてゐた。　一九〇三年に出版した「ポンチ氏作、劇の後段」"*Mr. Punch's Dramatic Sequels*" は其頃の主要な收獲である。

これは、古くは希臘劇の「アルセスチス」や沙翁の「ハムレット」や、近くはトム・

ロバートソンの「階級（カスト）」や、ビネロの「タンカレーの第二の妻」などの後段を、「金色夜叉」や「不如歸」の後篇を綴るのとは全く異（こと）なつた動機で、戯謔の中に幾分の皮肉な人生批判を含ませて綴り足したものらしい。　「ハンキン作脚本全集」に添へたジョン・ドリンクヲーターの緒言中に言ふ所に由ると、此著は其頓才（ウイット）に未（いまだ）しい所があつて、それから三年後に公にされた彼れの同類の著「失（なく）なつた傑作集」*Lost Masterpieces* といふのに比べるとずッと劣つてゐるといふが、どちらも自分はまだ讀んでゐないから、自評を加へる譯にはゆかぬ。　けれども表題其他によつて察すると、此二著はマーク・トエインの史的假作品やベヤリングの「死書簡（デッドレターズ）」「小品劇（デミユニチーヴドラマス）」などと共通する輕い淡い皮肉味を含んだ戯翻文であるらしい。

ハンキンが初めて劇に筆を著けたのは一九〇二年で、それから引續いて、都合七種の脚本を作り、其第八の作に取掛つた間際に、如何（どう）してだか、突然自殺してしま

つたのである。（自殺に關しては尙後にふことにする。）

其處女作「兩ウェザビー氏」"The Two Mr. Wetherby" の筋は—大正二年の「文藝倶樂部」一月號に「良人」といふ表題で翻案された佐藤紅綠氏の作がそれだといふことだ——其要旨をいふと、ある處に同じくウェザビーを名宣る兄弟の二紳士がある。　其一人は親族からも、世間からも不品行な、無賴漢のやうにいはれてをり、一人は非常な君子で、道德家だと褒められてゐる。　ところが君子視されてゐる紳士は、其品行方正だといふ定評のために縛られて、心にもない道德生活を强ひられ、一寸した罪のない小道樂をさへもすることが出來ないで、毎日やかましい伯母や野暮堅い妻に監視されて、窮屈な面白からぬ月日を送つてゐる、これが善人のウェザビー氏である。　又一人は、わざと事實以上に爲たい三昧の放埒をしてゐるらしく見せかけて、見識高の妻と別居し、妻をも親戚をも翻弄し、茶化しきつて世を渡

てゐる、これが惡人のウェザビー氏といふ筋である。　僞善と僞惡とを對立させ、それに道德屋の伯母だの見識屋の二人の妻だのを絡ませて、ショーの作を淡白にも單純にもしたやうな作意筆附で綴つた喜劇である。　此作は處女作だけに、ハンキンが脚本中では、或は一番未熟なものでもあらうが、併し尙此作者の特質は既に相應に現れてゐる。　ワイルドとは異つた手心で對話を巧みに警拔に運んで行く技倆も、文致の上の面白味も、多少の鹽辛みを含んだ頓智も、溫和ながら一種皮肉な人生觀の閃きなぞも、もう旣に此作中に見えてゐる。　が、彼の一段深みのなる有情滑稽や皮肉な諷刺の間に自らにしてほのめく懷しみ、やさしみはまだ此作には見えてゐない。　それに何處となく幾分の遊戯分子が混つてゐて、藝術的誠意がまだ十分でない。　ハンキンは、劇の結末をめでたく收めるのは不自然だといつて、後に論文まで書いた作者であるが、此頃はまださすがに英斷しかねたものと見えて、

此作はめでたし〳〵で終つてゐる。

第二の作で、舞臺效果や見物受からいふと、おそらく此作者の作中で第一等ともいふべき「のらくら息子の歸宅」*The Return of the Prodigal*" は一九〇四年に書上げられた。「聖書」の例話から得て來た表題であることはいふまでもない。のらくら息子のユースチス・ジャクスン *Eustace Jakson* はショーが得意の男性と何處か血脈の通ふ所のある洒脫磊落な天眞爛漫者 *truth-teller* で、僞善的な、虛榮坊な父や兄と面白い對照を作つてゐる。父から分けて貰つた財產は夙の昔に失してしまつて、多年の放浪生活の後、突然いかゞはしい身裝のまゝで父の家へ轉げ込んで來る、其夜の事局から幕が始まつて、例の家庭的波瀾が捲起り、母の涙、父の激怒、兄との衝突等が一わたりあつて、主人公はイブセン以來の定型通り、又元の放浪生活へ、若干の警句を殘しつゝ出て行くといふのが結末である。併し不思議に其人柄に奇矯なシ

のとは違つた、又偏固なイブセンなぞには見當らぬ、一種の愛嬌だか溫かみだかゞあつて、隨分會釋もなく父や兄に浴せかける皮肉な嘲罵が、一々有理に、又頗る快くをかしく聞えて、他の反抗氣味で書かれた近代劇の多數とは多少味を異にしてゐるのは注意すべき點である。おそらくこれはユーモリストとしての此作者の特質に原くのでもあらう。蓋し此作には、彼れが前作に現れてゐた其諸種の特質が、一段圓熟しつゝ存在してゐるばかりでなく、更に一の新しい大きな特長が加へられてゐるのである。即ち此作者は、餘りに聰明で冷靜であるために、到底熱烈な情の人を描き出すことは出來ぬらしいが、此作のジャクスン夫人の如き溫情の人を寫し得る力のあるのによつて見ると、彼れは決して普通の冷かな諷刺家ではなく、又戲謔の爲に誇張の筆を弄する只の喜劇作者でもないといふことが思はれた。

一九〇五年に及んで、ハンキンは更に二種の脚本を作つた。「我家で始めた慈

善」と「カシルの婚約」とがそれである。　前者は、ガルスワージーの「鳩」の主人公を女にしたやうなお心よしの婦人慈善家の邸に集つた種々の調子外れの人物を末社にして、作者得意の一男性と少々道徳的に出來過ぎてゐる一處女と人間宗の宣傳に熱中する一傳道家とを活躍させ、前の二作よりも稍輕い位の態度で普通の喜劇に近づかせて書いたらしく思はれる作で、其代り滑稽味は前々の作よりもゆたかで、喜劇作家としての作者の可能力を一層暗示した處に興味がある。　「カシルの婚約」も、作柄は前者とほゞ似通つたもので、舞臺效果については前々の諸作よりも苦心した跡が見えるが、社會上、倫理上の問題を提示したものとしての內容の感興は其割に深くない。　當人に不利益な婚約も強ひて之を斷念させようとすると、堰けば奔るのが戀の習ひだから、寧ろ望通り手に取らせて見ろといふ訓誨が主眼となつてゐるらしいのを見ても、作者の態度が此作では一寸持前以外にうろついてゐるかの

やうにも思はれる。　いかゞはしい身分の情婦を親族知交の前へ連れて來て見て、はじめて其女の妻とするに不適當だといふことを男が覺るといふ筋である。　とにかく、一作毎に其才に發達の餘地のあつたことを示してゐる。

「最終のド・ムラン家」（醒めたる女）は一九〇七年の作で、一幕物二種と未完成の喜劇一篇とを除くと、これがハンキンの最後の作で、同時に其最も圓熟した作劇態度を代表するものといつてよい。　例の通り、社會上、倫理上の一問題を提唱して、著者一流の解決を下したものとも見るべきであるが、其手法はさすがに藝術的であつて、傳道臭味は不思議に無い。　此作に就いては尙別にいふ積りだから、作意の事は暫く措くが、文致も此作に至つて一段の洗錬を增し、性格描寫も一層澁味を加へて來てゐる。

二種の一幕物の一つは、私が嘗て翻案した「現代男」の原本即ち「始終戀をして

ゐる男」で、*The Constant Lover*、一つは「失敗つた强盗」*The Burglar who Failed*で、共に一九〇八年の作である。　後者も面白い滑稽劇ではあるが、全體の脈が曾我のや式でもあり、ショーの「武功と人」の序幕から暗示を得たのではないかと疑はれる弱點もあつて、「始終戀をしてゐる男」程の現實味も面白味もない。　「始終戀をしてゐる男」は作者自身にも會心の作であつたといふが、たしかに彼れが傑作の一でもあり、近代英國喜劇の恥かしからぬ見本の一でもある。　小品ではあるが、「のらくら息子の歸宅」や「醒めたる女」に比べて優るとも劣らない彼れの傑作だといつてよい。　未完成の喜劇は「トムスン」と題したものだが、これは第一幕と斷片とを綴つたきりだといふことである。

ハンキンは、其始め、大分ショーに感服してゐたらしく、現にショーを辯護的に批評した一論文を書いてゐる。　彼れが「めでたし〳〵」の結末に反對意見を主張し

ながら、わざと自己の作三篇を合冊にして出版するに當つて、外題を「めでたく結局せる三脚本」"*Three Plays with Happy Endings*"として、一作毎に一種皮肉な大詰を見せ、讀書社會の俗尚を揶揄したなぞも、「ビューリタンの爲の三脚本」だの、「愉快な脚本」だの、「不愉快な脚本」だのと吹聽してかゝるショーの手法に似てゐる。

それから其脚本に長い序を添へて「めでたい結局」排斥の反對意見を述べてゐる。彼れの三脚本——「のらくら息子」、「慈善」、「婚約」——も、見やうによつてはめでたく結局してゐるといへぬこともないが、通例劇評家らの用ふる意味のとは異つてゐる。　月並の脚本でならば必ず結婚しなければならぬ其の男女が、ほんの一時もだ〳〵してゐたばかりで、あつけなく別れてしまふことになつてゐる。　で、並の觀者、讀者には、何だか鼻明されたやうにも、纏りの附かぬやうにも見えるであらうが、ハンキンはさうは思はぬのである。　別れたはうが、當人共に取つて、つまり好

都合なのである、だから作者の意からいふと、此定例に背いた結末が取りも直さずめでたし〳〵だといふのである。　例へば、「のらくら息子の歸宅」の結末は、其の父や兄に取つては不快事又は不祥事であるかも知れぬが、主人公みづからに取つては、明かに一の勝利であり、且つ正當な行動であるのだから、めでたし〳〵である、とハンキンは考へてゐる。　此等の觀察は、習俗道德の立場から見れば、甚だ皮肉に相違ない、併し幸ひに此作者は聰明で、常識の豐かな人であり、殊に强健な滑稽趣味を解し得てゐたので、皮肉は皮肉でも病的に僻歪(ひわい)れた皮肉ではなく、又其諷刺の的となる人物を描くにでも、決して惡意を以て誇張したり玩弄したりするやうなことはなかつた。　それゆゑ、彼れの作中には仰ぎ敬ふべき程の人物の寫されたことも無いと同時に、一點の取り處もなつかしみもないやうな、甚だしい卑劣な惡人も出て來ない。　ケネディも其「英文學史」で此點を賞めて、ハンキンの此有恰滑

稽を解する力こそ彼れをして病的皮肉に墮(おちい)ることをまぬがれしめた所以であるといひ、ショーやバーカーの思ひ附き得ない趣向を脚色し來るのもこれあるが爲だといつてゐる。　併しこれは多少の鑑賞眼ある人を俟つて始めて認めらるべきことで、普通人には彼れの作意はおそらく喜ばれなかつたに相違ない。　ハウトンの「ヒンドル例祭(ウエークス)」さへ問題になつたとすると、ハンキンの作の二三はフィリスチンの神經にショックを與へずにはおかなかつたであらう。　ガルスワージーが早く廣く歡迎されて、ハンキンが幾んど全く忘れられるに至つた理由は必しも推するに難くない。

ハンキンは其眞の大成の作はこれからといふべき三十九歳に非業の死を遂げた。何故かは今以て分らない。　失望の餘り、世に認識せられないのを不平の餘りに死を急いだのだといふ臆測の評があつたが、それは間違つてゐるとドリンクヲーター

は「ハンキン全集」の序で辯解してゐる。　彼れは、「眞の傑れた藝術家は、だれも皆自己の作つた物に對して自尊を有つてゐる。　ハンキンの如きも常に公然に自負してゐた。ある時ある友達が『ハンキン、君はいつでも自分の作つたものを、どれも立派だとばかり思つてゐるね』といつた、すると、ハンキンはそれに答へて『勿論さ。さう思はないやうなら、續けて作をする筈はないからね』といつた」と語り、「さうかといつて、彼れは決して誇大妄想者などではなく、非常に藝術的良心の精微に働く男で、作するたびに容易に自身で滿足するやうなことはなく、彫琢に彫琢を加へるのを例としたが、一たび出來上つてしまつたとなると、自ら信ずるの念が強かつた。……彼れは金錢の爲には作らなんだ、又俗受をも望まなんだ。彼れの作は夙に進歩した人々には認められてゐた、現に彼れ自身新しい演劇運動に携はつてゐた、さして彼れの作は其運動が認めて以て著しい產物の一としてゐたのである。さういふ

次第だから、彼れは其死する以前に、作者としては先づ最も會心と稱すべき種類の成功を享樂してゐたことになる、だから其自殺は、主として其稟賦に原いたものと解すべきだ」と辯解してゐる。

ケネディは「憂鬱は實に一八八〇年から一九〇五年までの英國文學の主調音であつた、其頃の雰圍氣は全體に黃疸的で、意志の薄弱は當代文士の最も著しい特質であつた」と歎息して、「十九世紀の末三十年は歐洲到る處悉く慘憺たる愁雲に掩はれてゐた氣味ではあつたが、就中英國は甚しかつた」と言ひ、「同じく悲慘な末路といつても彼のオスカー・ワイルドの如きは、其作をして邪路に逸せしめたといふ意味で、寧ろ單に文學的悲劇を演じたといふべき作家なのだが、時代精神の壓迫は幾多の文士を驅つて、形而下の意味での悲劇に陷らしめた」と歎じ、例のセイヌ河へ投身したクラッケンソオプを筆頭に、アダムスやローレンス・ホープやジョン・ダギッド

スンやハンキンやの名を擧げ、尙其他にも「チャールス・コンダーは發狂して死に、リオネル・ジョンスンとアーネスト・ダウスンとは暴酒の爲に夭折した」といつてゐる。我明治から大正へ懸けても同じやうな悲劇が少からずあつたことを思ふと、時代精神の犧牲といふことが倩々(つくづく)と考へられる。　ケネディは其原因を無神論と唯物論とロマンチシズムとアイデヤリズムとの合成作用に歸して、斯んなことを言つてゐる。「其前代の文士は、例へばスキンパーンは希臘主義(ヘレニズム)に逃れ、テニスンは宗教に隱れ、ブラウニングは有るがまゝを信じ、有り得べきを信じて安立し得たのだが、一八八〇年から一九〇五年までの藝術家らは、餘程堅固な人格でさへも抵抗しかねる前記四思潮の旋渦中に捲込まれたのだから叶はない。總て創作は想像の作用で出來るのであるのに、理性が想像に勝つ無神論や直接に現實に面することを怕れるロマンチシズムなぞが彌漫しては彼等の意氣が沮喪するに至つたのも當然な話だ。」と

いふやうな風に論じて、暗にハンキンの自殺をも同じ原因に歸さうとしてゐる。

短い傳すらも出來てゐないから、家庭又は社會の人としてのハンキンに關しては、私は何の知る所もない、が、其脚本に見えてゐる其人生觀や其性情の片影(グリムプス)によつて推測すると、ケネディの此論は、少々概括式(スキーピング)に過ぎて、少くともハンキンだけには當箙(あてはま)りかねるやうに思はれる。　無神論、唯物論は其通りだとしても、少くともシヨー程度にセンチメンタリズムを解脫し得て、强健な常識のゆたかさを示してゐるハンキンが、如何にして現實に面することを怕れるロマンチシストであり得たであらうか？　私は彼れの死は寧ろ其餘りに透徹的に聰明であつて、何等の空想をも希望をも慰藉をも想像するの餘地が無かつた處へ、何か未だ說明せられない或一動機が加はつたが爲ではないかと疑ふ。　それはともあれ、彼れが一作毎に其技を進めつゝあつたことを思ひ、且つ其最終の作が、尙若干の短所を有してゐるにも係ら

ず、明かにショー以前、バーカー以前、ガルスワージー以前に立派に一旗幟を建て得べき伏在能力を豫示してゐたのを思ふと、彼れの非命の死は英國新劇壇の一の哀むべき損失であつたと思はざるを得ない。

ハンキンが最後の作の「最終のド・ムラン家」(醒めたる女)は、其一流の人生觀なり其作劇上の技工なりが、比較的に最も圓熟してゐる點から見て、――少々痩せ過ぎた作で、其點からいふと「のらくら息子の歸宅」に劣つてゐるにも係らず、――彼れの最傑作と見做すべきである。　彼のイブセンの「人形の家」や「ヘッダ・ガブラー」やズーダーマンの「故郷」やショーの「ウォーレン夫人の職業」などが、其著眼、趣向及び手法を異にしながら、いづれも一の新しい女、非常套的な女を主要な人物にしてゐるやうに、ハンキンも此作では、主人公のジャネットの性格描寫に其主力を

集注してゐる。　ジャネットは、イブセン以來の劇の新しい女に比べると、更に幾歩かを進めた女ともいへるが、必しも時代の新舊には係らないで、只の醒めた女ともいへる。　私がこゝに「醒めた女」といふのは、在來用ひられ來つてゐるのよりも、一段徹底的な、卽ち理論的でなく、實行的なのをいふのである。　例へば、イブセンのノラはほんの醒めかけたばかりの女で、あれから後どうなるかは疑問に屬し、マグダやヘッダは性來のロマンチンストであつて、二人ともまだ中々其ロマンチシズムの夢が覺めさうにもなく、ショーのギーに至つては、もとが作者の誂へで出來た人間だけに、目はくわつと開いてゐるものゝ、實はまだ一度も夢を見たことのない女であるから、將來が心元ない。　畢竟ノラは問題劇の必要上無理やりに目を醒まさせられた女、マグダは舞臺效果の都合上超俗道德の演說をさせられたセンチメンタリストであり、ヘッダ、ギーは半分がた作者の變成女子であつて、何れも何等か

の意味に於て不自然な、非現實的な又は到底有り得べからざるやうな性格分子が行爲素かを具へてゐる。　尤もそれが即ち彼等が劇中の人物としては成功し、觀衆を悅ばせた所以でもあるのだが、若し「醒めた」といふ語を「徹底的自覺」といふ意味に取ると、彼等はたかゞ醒めかけた女か、口の上か智慧の上だけで醒めてゐる女であつて、眞に心の醒めた女ではない。　強い、明かな常識すらも彼等にはない。　就中マグダは感傷的な、衒氣澤山の、藝人根性の女であり、ヘッダはイブセンから天才と閲歷とを抽き去つて女にしたやうな、怖しく意固地な、甚しく空想的な、書物や人傳手でばかり人生知識を得てゐるひねくれた女である。　それらに比べるとジャネットは、ずッと分つた女で、其手强く常識的で實行的な所は、多少ギヽーに似てゐるが、現實の苦い經驗を通して豁然と自覺した點はノラに似てをり、しかも其自覺がたッた一夜の二三時間に起つたといふやうな奇蹟沙汰ではなく、八年間といふ年數を

閲し、大分苦勞をした後だといふ處に自然味と現實性とが具はつてゐる。　勿論、智的な、意志の强い、きつぱりした性格である、隨つて冷靜で、熱するといふとはない、けれども情のない女では決してなく、同情もあり、なつかしみもある普通の女性として寫されてある。　そこで、本文を讀めば直に心附くことだが、此女主人公と其父母親戚との關係及び其境遇、其前後の事情等——一言でいふと、此劇の事局全體——が不思議に「故郷」のそれと暗合してゐるだけに、兩女主人公の性格の相違が一段際立つて見える。　「故郷」の主人公も父の意志に背いて家出をして、多くの年を經て、自活の道を立て得てから歸つて來て、どうやら父とも其他の關係者とも妥協が成立ちさうになつた途端に昔の情人に邂逅し、それが新しい破綻の因となつて、再び故郷を去らざるを得ないことになるのだが、此抽象的な骨組だけは、そつくり其儘に「醒めたる女」にも當嵌まる。　それからマグダの父は軍人上りで、地

方の名望家で、頑固な舊習な家庭なのだが、「醒めたる女」の父も何千年と續いた地方の門閥家で、零落はしても、家長權は尙絶對なのである。　マグダの母は繼母ながらお心よし、「醒めたる女」の母は實母だが、同じく意志の弱い女。　それからマグダにも處女の妹があり、ジャネットにも久しぶりで逢ふ未婚の妹があり、餘り仲のよくない伯母もある。　マグダの情人は輕薄才子で、姙娠の情婦を承知の上で見棄てたらしいが、ジャネットの情人も――知らずでもあり境遇上止むを得なかつたのでもあるが――懷胎中の情婦と音信を絶つて竟に九ヶ年に及んだ。　マグダの父は女を舊情人と結婚させて、汚された家名を雪がうとしたが、ジャネットの父母も家出した長女を復歸させて、出來べくば舊情人と結婚させ、已に出來てゐる孫を其家の相續者にしようと望んだ。　マグダは、磨れた藝人には月並ともいふべき啖火にニイチェの細末を振掛けたやうな警句を並べて、田舍者の母妹や木捻人の牧師を驚かした

り教唆したりしてゐるが、ジャネットも無遠慮に、露骨に、父にも妹にも伯母にも自分の思つた通りの批判やら主張やらを述べ立てゝゐる。　こゝまでは双方の境遇も言情も態度も其經過さへも似てゐる。　が、類似は只それだけである。　此同一らしく見える輪廓の內側に、頗る著しい實質上の相違が張廣つてゐる。　それは主として主人公の性格描寫に於ける作者の主觀の相違から生じてゐる。

ハンキンは、「醒めたる女」によつて、在來の劇では、少くとも英國の劇では、未だ曾て試みられなかつた女性に關する二種の特別描寫を試みたといつてよい。　或は、彼れ一流の見解を性に關する二問題に對つて下したのだともいへる。　二問題とは、一は女性と其弄ばれた貞操との關係、即ち女子の面目問題である。　二は(已に前段で少し論じかけた)女子の自覺に對する新解釋である。

面目（體面）といふとは、「近代劇の種々相」の著者チャンドラー氏も論じてゐる通り、十九世紀以前に於ては歐洲劇の最も主要な題目の一であつた。　殊に佛蘭西の劇の如きは、最近代までも、多少體面問題に聯關してゐない作は稀だといつてよい位である。　我國でも、武士道成立以後の大概の社會的波瀾は、主として此面目といふことが原因になつてゐる。　武士はもとより女性とても、甚しく其面目を汚された場合には、當の敵手を殺すか、自ら死ぬかせねば其恥を雪ぎがたいものと信じてゐた。　仇討や果し合ひも多くはそれから起つてゐる。　女敵討といふことは、我國では元祿以後には聞かぬことだが、外國では近代までも決鬪の形式で行はれて來てゐる。　まだしも外國では、おひ〳〵便宜に變遷して、必ずしも何らかゞ死なずとも立合ひさへすればそれで手輕に雪辱式が濟むことになつた。　そこで、此雪辱式は、男性が處女の面目を辱めた場合――暴力を用ひて强ひて貞操を辱めたのを極度

として、只其感情だけを弄びものにしたといふ程度までを含めて――さういふ場合には、此雪辱式が如何適用せられたかといふに、昔の羅馬などでは、幾んど我武士道式のを行つたものであつたが、十八九世紀以後は流石に穩和な手段が講ぜられ、先づは其男性に迫つて正式の結婚を承諾させるのが定例の制裁となるやうになつた。で、在來の小説や劇には往々にして此制裁の落著が大團圓の一部となつてゐるのがある。　假令敵手の男が如何な放蕩者であらうと、無賴漢であらうと、父母は此制裁さへ行はれゝば、ともかくも體面だけは保たれたとして滿足したのである。　古くば沙翁の「五分と五分」といふ皮肉な喜劇の結末にも此事態が使つてある。　普通ならば、立敵とも見做さるべきアンジェロといふ僞善者が、其昔の婚約を國主の嚴命で强行せしめられて、事が收まるとになつてゐる。　「故郷」のマグダの父の如きも、參事官フォン・ケラーの不品行を十分に承知しながら、マグダとの結婚を强請

してゐる、女の將來を思ふよりも家の面目とか自身の體面とかを主としてゐる處に家本位の時代精神が見える。　我國でも、平民社會には、これに類した償罪法が、昔も行はれ、今も尙行はれてゐるが、武家の女は、其極端の場合には、或は自殺し、或は敵手を殺して自殺した。　町家の女でも、劇なぞでは、大抵此武家式を奉ずるものゝやうに作られてゐた。

體面問題は、以上擧げたものゝ外にも、まだ種々の事態を派生せしめてゐる。例へば自分は淸淨だが、其父か母かの過去か現在かが汚れてゐるために愧ぢ悲んで煩悶する男子又は女子の場合、妻又は夫又は子の醜名を自分の身に繫るものとして羞恥し懊惱する夫又は妻又は父母の場合なぞ。　これは何れも劇や小說の好い題材と見做されもし且つ容易く同情を惹くたぐひの情實だと思はれてもゐた。つまり、內外ともに、此體面問題といふものが、重大なことになつてゐたのである。

る。

が、社會組織の變遷と共に、時代精神が革まつて、道義の標準が動搖し始めた以上は、體面問題の解釋も一變しなければならぬ筈であるのに、實際は勿論、空想の世界に於てさへ、女性の面目問題に對して、私の知つてゐる限りでは、ハンキンの此作以前には、これほど明確に且つ大膽に解決を試みようとしたものはなかつた。ハンキンの醒めた女は、舊情人と正式に結婚せよといふ父の言葉に對して、斯う答へてゐる。「あの人は好いたらしい人ではあるが、良人とするだけの價値はない。　尤も昔は愛してゐたのだけれど、今は最早連添はうなぞとは思はぬ。　今は只我兒が可愛いばかりだ。」　彼女は斯う答へて、更に悲む色も、悔む色も、恥ぢる色もない。　彼女は、性的に男子に接するは、主として女性の第一の使命である生殖の爲の必須手段であつて、戀愛や同棲やそれに伴ふ悅樂は、女性に取つては寧ろ

第二義の事であると――學理上からではなく、孔雀蝶や蜜蜂のやうに――本能的に感得してゐるかのやうに、既に一たび異性に對する青春の悅樂を味得し、且つ子を生んで、母たるの經驗を心のまゝに享樂した以上は、且つ又其一面の經驗によつて如何に男性が浮薄であり、氣まぐれであり、身勝手であるかを窺ひ得た以上は、二度とは配偶を求めようとは思はぬのである。　彼女は常識的に無神論者でもあり唯物論者でもある、神秘家でもなく、詩人でもない。　で處女としての本能を滿足せしめ、成女として又母としての本能をも滿足せしめた以上は、最早女としての生甲斐はあつたのだから、豫知すべからざる將來の利害などは敢て顧慮しないといはうとしてゐる。　それから、父なし子として育て上げるのは、子の爲になるまいといはれたのに對して、生長して後に我子と自分との關係が如何ならうと、母を怨まうと不孝者にならうと、それはかまはないと言ひ切つてゐる。　如何にもさば〳〵とさ

ばけ切つたものである。　此女の心持のよいのは、第一其表裏のない言動である。マグダなどは、强さうなことをいふかと思ふと直に泣聲になつたり、妹の爲に說いゐるのかと思ふと、其實は妹に託して自分の愚癡を言つてゐるのであつたりして、ニイチェの薄皮が剝げかゝつて來るのが氣障だ。　ジャネットにはその嫌ひがない。哲學の受賣ではなく常識の悟入である。　妹へ新思想を吹込むのも公々然に父母の前でやる、マグダのやうに敎唆的でなく誘惑的でない。　其卒直な、公明正大な、一切の責任を自分一個に負つてかゝつてゐる處が氣持がよい。　眞に自覺した女はこゝまで到り着かなければならぬのであらう。　とはいへ、斯う自覺するのも、若しそれが主として功利的な、自己本位の打算上から來たのであるなら、或はそれは醒覺といふよりも、寧ろ偏僻などといふべきものかも知れぬが、此女のは然うでないとして――或は然うでないらしく――寫されてゐる。　作者は斯うあるのが徹底した

個人主義であつて、しかも其利己主義一點張でない處が、正しく醒めてゐる證據だといはうとしてゐるかのやうに見える。　即ちハンキンは、前に擧げた女性に關する二問題を巧みに一緒にして、如何にも論理的に、而も自然に、且つ素直に解決してゐる。　尤も女性の覺醒といふとは、其寫しかたと解釋こそはいろ〳〵だが、イプセンのノラ以來もう珍らしくもなくなつてゐるが、面目問題の方は、ハンキンの此作以後にこそ大分新人の注意を惹いたらしく、英國ばかりでもハンキンとほゞ同じ態度で同じ題材を取扱つてゐるのが二種まで出來てゐる。　一はハウトンの「ヒンドル例祭」で、二はガルスワージーの「惣領息子」である。　要するに、昔は他律的であつた責任や義務やが、今は專ら自律的になつて來たと同時に、體面といふとに對する感覺も專ら主觀的になつて來たのである。　苟も考へる力を有つてゐる者は、恥辱は自己の意識してする行爲以外から來べきものでないと考へ始めたので

ある。　自分が責任を負ふ能はざる事情又は境遇から生じた事に對しては、個人は何等の義務もなければ、隨つて何等の恥辱を蒙るべき謂はれもないといふ觀念である。　かよわい者が抵抗しがたい暴力で、どんな辱めを受けたからとて、それは狂犬などに噬まれたも同樣のことで、大不幸には相違なく、當人に取つても、其親近者に取つても、限りない、或は忘るゝ能はざる遺憾でも不快事でもあるには相違ないが、それは只感情上の話で、道德上の沙汰ではない。　それは當人の恥でも責任でもない。　これに對して悼み悲み憤り憫むは自然の情だが、決して其人を賤んだり、穢がつたりすべき道理はない。それと同じで、父又は母が如何いふ履歷のものであらうと、妻なり夫なりの過去が如何あらうと、或は彼等が今尙其歷史を續けてゐようと、自分が意識してその不淸淨な過去又は現在を利用しようとしてゐない限りは、敢て恥づるにも及ばぬとである。　當人の責任は其人自らの內部から生れ出

べきである。（これをショーは「ウォーレン夫人の職業」で解決しようと試みた）。

處女が其感情を弄ばれたり、又は貞操を弄ばれたりした場合は、いくらかそれとは格違ひではあるが、これとても主眼は當人の意志である。　當人が尙依然として其敵手を愛してをらば格別、さうでないのに賠償結婚を强ふるのは、例の世間體ばかりを憚つて肝腎な自分を忘れた不條理な舊習である。　丁度、愛情の銷磨してしまつた夫婦ならば、假令其間に子供があらうと、便宜に處分して速かに且つ公然と離別した方が一層道義的であると同じに、相愛の關係が既に過去となり果てた以上は、その關係を一時の夢として洒然脫然と忘れてしまふ方が合理的でもあり、賢明でもある。　若し此際何か問題が起るものならば、それは女又は男が飽迄も結婚を望み、男又は女も表面だけはそれを承諾してゐて、しかも何か不誠實な動機があつて、其女又は男に不利な又は有害な行爲を加へるといふ場合か、若しくは其一時的

關係の結果尙現に其女（又は男）に何等かの多少重大な迷惑を及ぼしつゝあるのを、男（又は女）が冷酷に看過してゐるといふやうな場合に起るでもあらう。　自覺又は獨立を標榜しようとする男女に取つて、最も卑しむべきは其表裏であり、僞善であり、責任を他に嫁することである。　然るに「醒めたる女」の場合はそれではない。此意味から見て、ハンキンの女主人公の行動は、如何にも譯の分つた、實際的な、てきぱきとした、一言でいふと、醒めた行き方だといつてよい。

劇作家としてのハンキン（終）

大正九年七月八日印刷　大正九年八月十　日發行

（正價金六十五錢）

始終戀をしてゐる男

著譯者　坪內雄藏

發行者　東京市京橋區南槇町十八番地　大倉廣三郎

印刷者　東京市京橋區松屋町三丁目二番地　坂本謹四郎

（博新舍印刷所印刷）

（著作權所有）

發行所　東京市京橋區南槇町十八番地　振替東京四六八四　電話京橋二四六三　廣文堂書店

最後のドムラン家

四六判洋綴美本
金壹圓貳拾錢
送料金六錢

坪内逍遙博士譯

ハンキン氏作。頑固な舊弊な父を家長として名望家に育つたジャネットの戀、懷胎、出奔、生活の獨立、情人との邂逅、父の憤怒、伯母の嘲笑、母の涙、妹との衝突、結婚問題等種々の葛藤を綴出したる巧緻圓熟の傑作。ジャネットが自分の考へてゐる通りの批判やら主張やらを露骨に思ふ存分に述べて、弄ばれた我が貞操に對しては自ら一切の責任を負つて悔む色なく、悲しむ色なく、怒る色なく、痛快深刻、眞に必讀に値する女性の徹底的覺醒劇である。

黑チユリップ

三五判リード製美本
金壹圓九拾錢
送料金拾錢

太田耕治譯

アレキサンダー・デユマの傑作であつて、かの巖窟王と併び稱せらるゝ有名な小説である。卽ちヘーグ市を中心として惹起せる大活劇を描寫したもので、奸邪と正義の爭鬪、戀と義理の葛藤は重疊山なすの波瀾を起して、人生行路の辛酸の堪へ難きを思はしむるかと思へば、艶冶花の如き美人を拉し來りて甘き香に青春の血を湧かしむる等、讀去り讀來りて益々興趣の深きを覺えしめる。

友禪姿

ポケット形洋綴美本
金六拾錢
送料金六錢

水谷西紅氏著

戀は則ち人生の甘い、樂しい春なればこそ、戀ゆゑに一切の障碍と戰へる苦鬪哀樂の悲史が生れる。男の意氣地、女の張り、戀のローマンスとして有名な比翼塚の小紫、小女郎、皿屋敷のお菊、お染久松、梅川忠兵衛、三勝半七、おその六三郎、夕霧伊左衛門、お半長吉、お夏淸十郎の十篇を收錄したのが本書である。流麗の文、洗練の筆、讀んで靑春の血を湧かせ。

9.9. 4

671
162

終